

令和５年度 地球温暖化防止に貢献する
ブルーカーボンの役割に関する検討会
第１回 議事要旨

日時：令和５年 10 月 13 日(金) 10:00～12:00

場所：新橋ビジネスフォーラム

1. ブルーカーボン生態系の温室効果ガスインベントリ報告に係る検討や、「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」の推進、「J ブルークレジット制度」の取組状況について、それぞれ参加者より説明した後、意見交換を行った。
2. 意見交換では、参加者から、以下のような意見があった。
 - (１) 温室効果ガスインベントリ報告に係る検討
 - 海藻藻場の CO2 吸収量算定の方法論についてガイドラインに記載がなくても計上することは可能。知見が蓄積されたために、今回新たに計上することを、説明する必要がある。
 - 他分野の専門家からブルーカーボンの CO2 吸収量に係る不確実性等について厳しい意見を聴くこともある。インベントリ報告にあたり、計上する数値に対し合理的な説明ができるようにする必要がある。
 - ブルーカーボンデータアーカイブに関連して、吸収量の視点に限らず、生物多様性についても併せて評価することを検討してはどうか。
 - (２) ブルーインフラ・アライアンス（仮称）の設立
 - 関係者間のマッチングを自動化する仕組みは必要。制度が悪用されないよう、参加者には一定のスクリーニングが必要ではないか。
 - ブルーカーボンに限らず、マッチング相手がふさわしいか判断することは難しく、どのように参加者をスクリーニングするかは難しい。
 - 世の中がブルーカーボンに関心を持ち始めているため、一般向けの普及啓発と並行して、現場サイドでの関係者間の連携に資する取組を進めてほしい。
 - マッチングサイトは限定公開・登録制とすることは必要であり、第三者が評価を閲覧できるようにすることは難しいのではないかと。また、事務局がどこまで介入するかによるが、介入する場合、作業量が膨大になることに留意が必要。

以上